



暮らしから考える

HOUSING 未来予想

●青森大学副学長 教授・エッセイスト・ジャーナリスト
見城美枝子

〈パンダの幸〉

上野動物園のパンダ、シンシンが出産した。ぬいぐるみの人形のような生後6ヵ月くらいから、親は竹を噛んで離乳食を作って食べさせ、2年後には子離れ、赤ちゃんも3年経つと繁殖期の若者になるという。動物園へ人間の赤ちゃんを生後3ヵ月くらいから連れて行くことが推奨されている。動物の糞や毛、菌が空気中に舞っており、赤ちゃんに免疫が付きアレルギー体質になりにくくなるそうだ。我が家は孫誕生でネズミの糞消滅に駆除を決行も、パンダの赤ちゃんの糞は幸を呼ぶ。

住宅地の Special Report
エリアマネジメントと
居住者意識に
関する調査



エリアマネジメントへの期待

既成市街地や郊外の住宅地における人口減少・少子高齢化の進展、空き家の発生などに伴う諸問題を解決し、安心・安全に住み続けられる地域として再生していくには、地域内に存在するマンションなどを核とした地域のコミュニティが発展し、居住者、自治会、管理組合、民間事業者、地方公共団体などによる多様な活動が展開される「住宅地のエリアマネジメント」の普及が鍵となるのではないかと考えられる。



2016年人口関連指標の動き
将来推計人口と2016年人口動態
統計月報年計(概数)

国立社会保障・人口問題研究所公表の「日本の将来推計人口(2017年推計)」によると、日本の総人口は長期の人口減少過程に入り、出生中位・死亡中位推計では2015年の1億2,709万人から2040年に1億1,092万人、2053年には9,924万人と1億人を下回り、2065年に8,808万人に減少する。厚生労働省公表の「2016年人口動態統計月報年計(概数)」によると、2016年の出生数は前年比2万8,698人減の97万6,979人で初めて100万人を下回った。

変わる街探検隊

第134回

来場者数が2億人を突破した「グランフロント大阪」
「うめきた」周辺地域(大阪市北区)

「うめきた」と呼ばれるJR大阪駅北地区に2013年4月「グランフロント大阪」が開業した。約7haの敷地に建つ超高層ビル4棟は、駅につながる「うめきた広場」、商業施設「グランフロント大阪ショップ&レストラン」、ホテル、分譲マンションの構成。集客は順調で2017年3月1日来場者数が延べ2億人を突破した。「うめきた2期地区」では「(仮称)北梅田」駅新設計画が進行。2023年春に街びらきの予定、新駅は大阪・キタの人の流れを一変させる可能性を秘めている。



開業4周年を迎えた「グランフロント大阪」



JR大阪駅につながる「うめきた広場」

寄稿 都市を考える「インフラ都市論」 Vol.45

桓武天皇の失敗と成功

●特定非常利活動法人 日本水フォーラム 事務局長
●首都大学東京客員教授

竹村 公太郎

日本文明は奈良盆地で誕生した。奈良盆地は安全で、木材資源・エネルギーや水資源、水運インフラに恵まれていた。しかも文明を膨張させ、発展させるエンジンも持っていた。何十年かに一度の豪雨と土砂崩れという自然災害の力を利用して新田開発が展開できた。それでも桓武天皇は遷都した。なぜ奈良盆地を離れたのか？それは宮殿や寺院造営のため盆地の周囲から巨木が切り出され、山が荒廃したから。奈良時代後半、既に奈良盆地周辺に木材はない。秀山に囲まれた盆地は厄介で危険な土地、インフラが崩壊した地から脱出するのは必然だ。784年、桓武天皇は森林資源が豊富で、巨椋池のある長岡京へ遷都。が、長岡京は落とし穴を持っていた。

首都圏

2017年 マンション市場動向

近畿圏

5月

新規供給戸数	2,603戸	(前年同月比) △13.3%
初月販売率	72.2%	(前年同月比) 1.3%↑
平均価格	5,981万円	(前月比) 1.1%↑
分譲㎡単価[3.3㎡単価]	861千円[2,845千円]	(前月比) 0.6%↑

新規供給戸数	1,738戸	(前年同月比) 22.2%↑
初月販売率	79.9%	(前年同月比) 15.4%↑
平均価格	3,570万円	(前月比) △6.9%
分譲㎡単価[3.3㎡単価]	620千円[2,049千円]	(前月比) △0.3%